

農業委員会だより

No.35

平成28年8月発行

和子 西瓜

戸籍簿にのこる烈しさ西瓜割る 和子



農事組合法人

「結いの郷」設立



去る4月9日大東町塩田地区箱淵集落に農事組合法人「結いの郷」が設立された。

この集落は市内では山間に属し北に海潮地区、南は久野地区との境に接する位置にある。

古来から「たたら」の生産地として、また近代では木炭の生産、出荷が盛んな地域として栄えたが、近隣地区同様に、この集落でも少子化、高齢化が急速に進み、高齢化に至っては85%と市内でもトップとなっている。

これにより耕作放棄地が増加し、農地台帳面積全体

の85%が荒廃しているという厳しい現状にある。

この現状を深く憂い、これ以上荒廃させない、そして集落の自然環境を守ろうとの強い決意のもと、自治会長さんのリーダーシップにより、平成27年度から圃場整備に取り組んできた。

この取り組みを進める中で、今後の集落営農について何度も会議を重ねこの度の設立となった。

現在構成員は6名（地区内に住所又は農地を所有する農家）であり、組織内に2つの作業部会を置き、組合員の農業に係る事業を行うこととしている。

組織の経営形態として、利用権設定による農業経営（協業経営）や構成員の一部及び地区外の作業受託も行うこととしている。

平成28年度は利用権設定による作付を206a、作業受託（秋作業）50aを当面予定している。

少ない構成員でスタートした組織であるが、小規模であっても法人を維持するために前向きな方策はいくらでもあるとの考えから、今後知恵を出しながら一層結束を強めながら進めていくことを確認し合っている。

取材 藤原 修至委員

平成28年度の目標及びその達成に向けた活動計画（要旨）を紹介します

I 優良農地の確保に向けた取り組み

目 標		遊休農地の解消面積 12ha		
現 状 (平成28年3月現在)	管内の農地面積 (A)	遊休農地面積 (B)	割合 (B/A×100)	
	3,677ha *1	51.1ha	1.39%	
課 題		米価下落、鳥獣被害等により経営が成り立たない状況で、新たな就農もなく高齢化が進み、条件不利地を中心に遊休農地が増加している。機械故障を機に離農するケースも増えている。優良農地の遊休化を防ぐための取り組みが必要である。		
活 動 計 画	農地の利用状況調査 (町ごとに班編成)	実 施 時 期	調査員数 (実数)	調査結果取りまとめ時期
	遊休農地への指導	9月～10月	60人	11月
		利用意向調査実施時期：12月～1月		

*1 管内の農地面積…耕作面積統計 (3,630ha) + 遊休農地面積 (47ha)

II 認定農業者等担い手の育成及び確保

目 標	認定農業者		特定農業法人		特定農業団体
	2 経営		0 法人		0 団体
現 状	農家数	3,899戸*2	認定農業者	特定農業法人	特定農業団体
	うち主業農家	118戸*2	77経営	15法人	1 団体
	農業生産法人数	29法人			
課 題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間の狭小な農地は道路条件、昇降路などの担い手の利用条件に合わなく、参入が厳しい。 ・ 農地が整然と連携しておらず大規模な集積は望めない。 ・ 農地、農業用施設に対する有害鳥獣被害が多発する地域で、フェンス、電気柵などの対策が必要。 			
活 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手育成支援室等と連携し、新規参入を促す。また支援室と連携し新規就農者に対する支援（就農給付金、収納研修、収納後の営農、経営サポート）を行う。 			

*2 農家数、主業農家数は H28 農林業センサス概数値より

III 担い手への農地の利用集積

目 標		集積面積 530ha (うち新規集積面積 25ha)		
現 状	管内の農地面積	これまでの集積面積	集積率	
	3,630ha	506ha	13.90%	
課 題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 山間地域において、圃場の条件が悪く農地の受け手がいない。 ・ 担い手が高齢化し規模拡大も限界に達している。 ・ 先が見通せない状況により短期の賃貸契約が増えてきている。 		
活 動 計 画		担い手育成支援会議で農林振興課、県、JA等と担い手の情報を共有し集積を図る。 ・ 通 年……機構集積補助金を利用し新たな法人の設立を促し地域の担い手を育成する。 農業委員会においても、制度の周知を図る。 ・ 3月・11月……利用権設定期間が終了する農地は終期通知をを行い、再設定の促進を図る。		

IV 違反転用への適正な対応

目 標		解消面積 0.4ha		
現 状 (平成28年3月現在)	管内の農地面積 (A)	違反転用面積 (B)	割合 (B/A×100)	
	3,630ha	0.4ha	0.01%	
課 題		違反転用は毎年発生している状況である。農業委員会だよりでも漫画による制度の周知などをわかり易い広報に努めているが十分な浸透に至っていない。		
活 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月…ホームページや農業委員会だより等による周知活動を行う。 ○ 9月～10月…利用状況調査において各担当地区をパトロールする。地権者がいた場合は現地で指導する。 ○ 1月～2月…農地パトロール結果を取りまとめ、地権者へ指導を行う。 		

研修をされている皆さんを紹介します。

新たに就農を希望される方への支援で市内の
に、農業経営や農業技術を学びます。

ぶどう生産者の星野昭美さん宅では、
45aの畑にピオーネ、シャインマスカット、
デラウエア、クイーンミーナ、ウインク、コトピー
をハウス栽培されています。

ぶどう生産者
星野 昭美さん
(加茂町)

高校、大学と6年間農業分野で野菜を専攻し、卒業後は木次町の「農事組合法人槻之屋ヒーリング」で野菜担当として5年間働いて来ました。

今年度からは、加茂町三代でぶどう経営をされている星野 昭美さんのお宅でぶどう栽培を研修しています。

母の実家が受け入れ農家の星野さんの自宅近くにあり、母の実家もぶどうを栽培しているので、そこも手伝いながらの研修です。

もともと農業が好きで、自分で計画を立てて自分がやりたい事に取り組めるのに魅力を感じ将来的には、4年～5年ぐらいかけて指導を受けながら、母方の実家のぶどう栽培も引継ぎ、規模ももう少し拡大していけるようにしたいと思っています。



雲南市三刀屋出身

星野 和志さん (25才)

ぶどう栽培にも、後継者がいなくなっ
て来ている現状もあり、今まで出来な
かった新しい事を若い人の感覚で取り組
んで欲しい。



三代地区
ぶどう生産組合
星野 昭美さん

農事組合法人
日登牧場(木次町)

自分は愛知県の出身ですが母が大田市出身
であったこともあり、中学から大田市ですごし
地元を卒業した後、大田市の牧場で4年
間、主にキャベツを中心とした野菜の栽培をして
きました。

今年の2月からは、木次町にある「農事組合法人 日登牧場」でブラウンス
イスと言う乳牛の放牧による酪農事業の研修を受けています。

このブラウンスイスという乳牛は茶色い色の乳牛で、一般に知られている白
黒のホルスタインよりも少し小柄な大きさと乳質の成分も若干異なります。そ
のため私たちの目にする機会は少ないですが、ケーキなど高級食材に使われて
います。以前から和牛ではなく乳牛の放牧に興味がありここを選びました。

他の職員の方とローテーションを組ながらも朝6時前から遅いときは夜7時頃までの作業や仔牛の出産の
立ち会い等、毎日忙しく作業をしています。

今は、仕事を覚える事が最優先ですが、休日は、あまり外出はしません、たまに買い物に行くか読書をして
います。苦勞や困ったことは……「言葉が……出雲弁が分からない時があつて困っています。」

この研修終了後や将来は、牛にストレスを感じさせない育成方法など、もっともっと勉強して行かないと
いけないと思っています。



愛知県出身

垣内 浩貴さん (23才)

農事組合法人日登牧場は、17haの
山地放牧で、ブラウンスイス牛42頭を
3名の職員で飼育されています。

彼の性格は真面目で、研究熱心で向上心が強いので、早く仕事を
覚えて、この牧場の後継者として育てられるよう期待しています。



農事組合法人
日登牧場
牧場長
福馬 保信さん





就農サポート事業にて就農

就農サポート事業とは、雲南市で農業者（認定農業者等）を研修先

農事組合法人
すがや (吉田町)

農事組合法人すがやは組合員28名で水稲 24haほか、ソバ、メロン、スイートコーン、アスパラガス、ミニトマト、ナスビ、などの野菜や加工品なども手掛けている。
今年4月から2名の研修生を受け入れています。

昨年までは出雲市にある農事組合で1年間米やソバ、野菜作りなどを研修しました。研修を終え、田舎で生活がしたい希望もあり、「ふるさと島根定住財団」から吉田町と農事組合法人すがやの紹介をいただきました。田舎でもっとたくさんの農業をしたいという思いからこちらにきました。

ここでは、ハウス造り、田植、ミニトマト、アスパラなどの作業をしています。

雲南市は自然がいっぱいで、まだ何があるのかどんなことになるのか分からないけどそれが楽しみです。また、地元で復活された“火炎太鼓”にもお誘いがありこれから農業だけでなく伝統芸能でも地域の皆さんとの交流を深めていきたいです。

1年間の研修後はここで生活をしながら自分の畑を持って農業をしたいと思っています。



茨城県出身

澤島 旭さん (31才)

昨年、澤島さんが農業の研修をされている話を聞いて自分も農業がしたいという気持が大きくなり、今年度この研修に参加することにしました。

初めての農業体験ですが、毎日が楽しいです。現在研修では沢山色々なことをしていますが、今はどうもろこし作業の真最中です。また毎週水曜日は「菅谷たたら山内生活伝承館」で来館者の対応をしています。地元の出身ではないので、たたら雑学的な話ができるよう、農業だけでなく、たたら製鉄についても勉強中です。

初めての農業ですが不安はありません。成長していく野菜たちを見るのがとても楽しみです。

困ったことは、農業作業には特にないけど、仕事が終わり買い物に行くとお店が閉まっていて……早くに閉まるんですね……。 (笑)

2年間の研修後は、ここで組合員としていろいろ勉強しながら、“太鼓”も覚えていき生活できたらと思っています。



愛知県出身

加納ひかるさん (26才)

「田舎に来て農業をしたいという人を大切にしないといけない」と思っています。

若いうちから何かモノを起こしていかなければいけない。そして安定していくこと、そして体調を気候や環境に合わせ1年間無事に過ごすことが大切だ。人と人のつながりを大切にして、知識を深めていずれ設備を作って畑など経営してくれたらと期待をしています。研修後は、ここで組合員としていろいろ勉強しながら、定住化につながったらと思っています。

農事組合法人
すがや
代表理事
錦織 満さん



平成28年度 米選機1.9mmふるい目導入支援事業

- 良質米生産に意欲的に取り組む農業者の「米選機1.9mmふるい目導入」に対して助成を行います。
- 【目的】 良質米生産に意欲的に取り組む「米選機1.9mmふるい目導入」について支援を行い、消費者に選ばれる良質米産地の形成を図る。
 - 【支援対象者】 認定農業者等、地域で乾燥調製受託作業を行う農家
 - 【対象期間】 平成28年4月から平成29年3月まで（今年度中）の導入
 - 【支援額】 (1) 1.9mmふるい目購入に対して1万円（定額）
(2) 選別計量機（1.9mmふるい目搭載機）購入に対して1万円（定額）
- ※但し、他の補助事業を受けられる場合は、交付額が一万円以内になる場合があります。

年間予算枠に到達しだい終了となります。
条件等、詳しい内容は問い合わせください。
※導入の写真、支払い済みであることが証明できる書類が必要です。

お問い合わせ先
雲南市農林振興協議会
(農林振興課)
☎0854-40-1051

視察研修を 受け入れました

- 5/30 大田市農業委員会
農地取得の下限面積について
農地利用状況調査及び利用意向調査の取り組みについて
- 6/29 福島県 天栄村議会 産業建設常任委員会
農地付き空き家活動制度について



ひとときの安らぎをもたらしてくれる一杯のコーヒー。コーヒーは私たちの生活にとっても身近な存在です。
(参考：コーヒー読本より)

焙煎の度合いは、浅煎りは酸味が強く、中煎りは苦味と酸味がバランスよく調和し、深煎りは苦味が強くなる。浅入りの豆は深い茶褐色、深煎りの豆はほとんど黒とっていいほど濃い色をして、成分も味も香りも変化します。豆の挽き方は粗いほどあっさり、細かいほど濃厚といわれ、抽出にパーコレーターやネルドリップを使う場合は粗挽き、ペーパードリップやサイフォンには中挽き、エスプレッソには細かく引いた豆を使うのがよいとされている。

おいしいコーヒーを飲む、入れるためには、豆の焙煎、挽き方、水が大切です。焙煎後の豆は湿った高温の空気に触れると、味も香りも損なわれるので保存に注意が必要で、焙煎豆は挽くと風味はたちまち失われます。使う直前に挽くのがベストです。水は鉄、マンガンなどミネラル含有量の少ないものが良く、沸騰中のお湯はコーヒーを苦くしてしまうので、汲みためたの水を96℃前後で使うことです。

コーヒーが入りました。まずブラックでひと口飲んでコーヒー本来の味にふれてみてください。自分好みの味はどういうものか、苦みか酸味かどのコーヒーが合っているか確認したいものです。コーヒーにはストレートで飲んでもそれぞれ特徴が味わえる楽しさがある。香り、酸味、コクのバランスがとれ最高級と言われる豊かな香りのキリマンジャロなどのように産地名をつけた多くのストレートコーヒーがある。一方、ブレンドコーヒーは、甘味、酸味、苦み、香、コクなどにおいて、それぞれの豆がもつ異なる特性を組み合わせて全く新しい風味を創り出す。それがより大きなおいしさを持ったコーヒーとなっている。自分のブレンドを持ちたいものです。



ちょっと

いっぷく〜珈琲〜



現地レポート

吉田町深野地区 農作業受託型営農組合 『サンライス深野』

西村忠明代表のもと組合員37名、常時作業員7名により育苗や田植え、防除、刈取り、乾燥調製、脱穀など主に水稲関連の農作業を受託しており、受託面積は13ヘクタールとなっております。任意組織であるため内部留保をしていない点で、やや不安定な面はあるものの、育苗や稲刈りは他地区分も受け入れて収益を確保するとともに、中山間事業等の活用により機械設備の更新を行いながら組合を運営し、

「サンライス深野」は、それまでの一部農家による共同機械利用組合を発展させた形で、平成21年に設立した農作業受託型の営農組合（任意組織、非法人）です。

地元小学生の農業体験！ 種まきと田植え体験



地域農業の存続を図っています。

一方で、学校行事や地域活動に対しても積極的に参加協力しており、特に学校行事では、深野地内にある田井小学校の総合的な学習の一環として、毎年5、6年生を対象に種まきから田植え、草取り、稲刈り、脱穀までの一連の農作業を体験してもらっています。今年も児童12名で4月中旬の種まきから始まり、5月24日には田植え（手植え）を行っています。

西村代表は「田畑の広がる地域で育っていても、実際に農作業を経験している子どもは少ないようです。こうした機会を通じて、農業をより身近に感じてほしい。」と話します。

作業従事者の確保と機械設備の更新をスムーズに行うことさえできれば、今後も地域の農地を守っていけるとのことであり、当面、組合の体制や事業規模は現状維持を保ちつつ、農業情勢次第では法人化も視野に入れながら、引き続き深野地区内外の「地域貢献」を実践する営農組合にしたいとのことでした。

取材 情報委員会

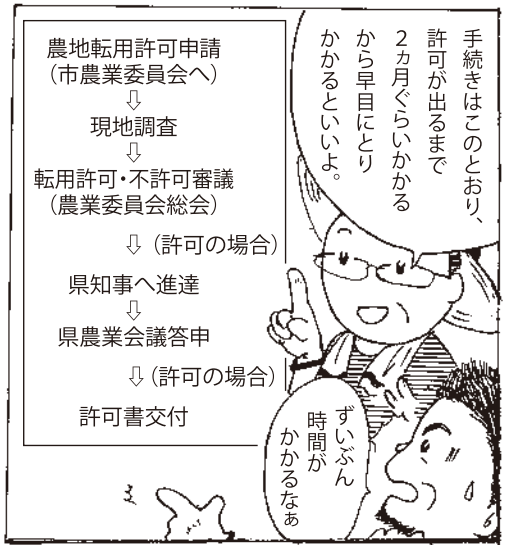
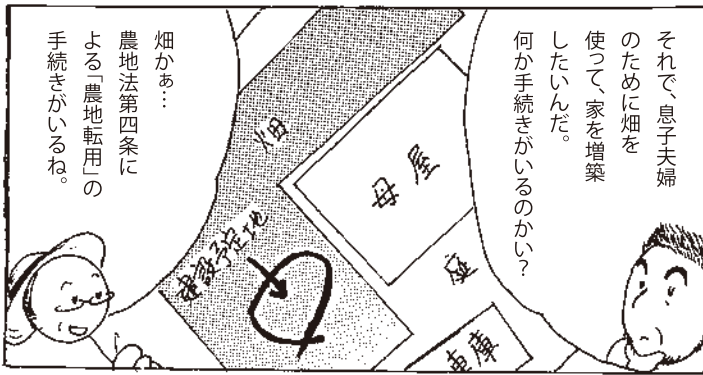
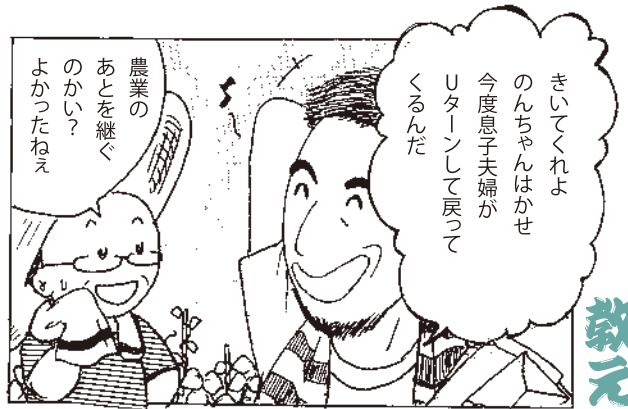
「全国農業新聞」を購読しませんか？

全国農業新聞は、農家の皆さんに役立つ情報がコンパクトで分かりやすく好評です。また、農業に関する情報や、国の農業施策、全国の先進農業の事例報告等が紹介されています。

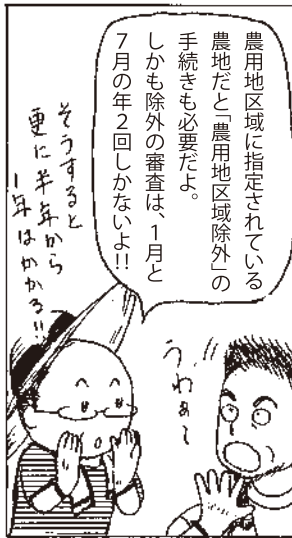
○毎週金曜日発行 ○購読料：月額 700 円(送料・税込み)

購読のお申し込みはお近くの農業委員または雲南市農業委員会(☎0854-40-1092)へ

敬愛する！のんちゃんばかせ



- 転用申請で審査されるポイントは 主にこの5つ)
- ① 転用の目的は適正か。
 - ② 転用の面積は適正か。
 - ③ 周辺の農地・水利など、農業に与える影響はどうか。
 - ④ 転用の目的は確実に実現できるか。
 - ⑤ 他の法令等での手続きが必要な場合、それがなされているか。



BY. ワイワイワイ

編集後記

▼中国の古典・莊子に「螻蛄不知春秋」という言葉がある。螻蛄とは蝉のことで「蝉は夏だけを生き、春と秋を知らない。春も秋も知らない夏の蝉と季節のことを語ることはできない」という意味である。そしてこの言葉は「自己または自国の視点にとられすぎる人びとの限界」を指摘する場合に多く用いられてきた。

▼今号では「農事組合法人の設立」や「就農サポート事業による新規就農者」を紹介している。筆者の経験では地域づくりのリーダーに共通することは、外界での体験を持っていることと、外界への強い関心である。リーダーによってはその地域の出身者ではなく、他地域から移り住んできたという人も意外と多い。この体験と関心が現在の地域を客観的に見る余裕と他地域との関連のなかで地域を相対化するという視点をそのリーダーに与えている。

▼地域に強い思い入れを持つということは無論大切である。それなくしては地域を再生し、地域を蘇らすことはできない。しかし、たんにその地域に埋没することは蝉になることであろう。農業分野として例外ではない。(長)